

はじめに

(平成30年度事業の概要)

I. 背景

近年、我が国における交通事故死者数は減少傾向にあるものの、交通事故が国民全体の重大な問題であることに変わりはない。そして、交通事故による被害者やその家族・遺族は、事故後、深い悲しみやつらい体験から、さまざまな悩みを抱えながらの生活を強いられており、交通事故被害者等の支援の一層の充実が必要である。

II. 目的

交通事故被害者等（交通事故に遭った被害者やその家族・遺族をいう。以下同じ。）が、深い悲しみやつらい体験から立ち直り、回復に向けて再び歩み出すことができるような土壌を醸成し、交通事故被害者等の権利・利益の保護を図ることを本事業の目的とする。

III. 事業の概要

平成30年度は、以下の事業を実施した。

- ①子供の頃に交通事故で家族を亡くした子供の支援に向けて、広く一般に情報提供することを目的として、シンポジウムを開催した。
- ②子供の頃に交通事故で家族を亡くした子供の支援に向けて、地域の関係者の意思疎通を図るため、意見交換会を実施した。
- ③交通事故被害者等の支援に向けて、地域の相談窓口関係者の意思疎通を図るため、意見交換会を実施した。
- ④本事業の目的の達成に資するため、交通事故被害者等に接する立場にある者の資質の向上を図るとともに、交通事故被害者等の自助グループ（「同じようなつらさを抱えた者同士が、お互いに支え合い、励まし合う中から、問題の解決や克服を図り、被害に遭う前の平穏な生活を再び取り戻す」ことを目的に集うグループのことをいう。以下同じ。）の効果的な運営に対する支援に向けて、被害者支援センターの支援者に対し講義や意見交換を行った。

注1）ここでいう交通事故とは、道路交通法第2条第1項第1号に規定する道路において、車両等及び列車の交通によって起こされた事故で、人の死亡又は負傷を伴うもの（人身事故）をいう。

IV. 事業の内容

本事業の目的を踏まえ、平成 30 年度に行った事業内容については、以下のとおりである。
(敬称略)

① 交通事故被害者サポート事業検討会

有識者 7 名の検討会委員と事務局により、検討会を 3 回開催（第 1 回：平成 30 年 7 月 3 日、第 2 回：12 月 18 日、第 3 回：平成 31 年 2 月 5 日）。

② 交通事故で家族を亡くした子供の支援に関するシンポジウム

●基調講演「家族との『死別を生きる』子どもたちを支える

～沈黙と「あのね」の間で」

講師：あしなが育英会東北事務所長 西田 正弘

(平成 30 年度交通事故被害者サポート事業検討会委員)

●講演「交通事故で家族を亡くした子供の支援のために～伝えたい思い～」

講師：渡邊 理香（平成 8 年、娘（当時 6 歳）を交通事故で失う）

●パネルディスカッション「子供の頃に交通事故で家族を亡くすということ」

コーディネーター：

飲酒・ひき逃げ事犯に厳罰を求める遺族・関係者全国連絡協議会幹事

井上 郁美

(平成 30 年度交通事故被害者サポート事業検討会委員)

あしなが育英会東北事務所長 西田 正弘

(平成 30 年度交通事故被害者サポート事業検討会委員)

パネリスト：

子供の頃に交通事故で家族を亡くしたご遺族および子供を亡くしたご遺族

柳田 萌香（平成 21 年（当時 13 歳）、父を交通事故で失う）

佐藤 早織（平成 12 年、息子（当時 8 歳）を交通事故で失う）

③ 交通事故で家族を亡くした子供の支援に関する意見交換会

[開催地：埼玉県]

●ご遺族の話

○齋藤 水奈（平成 25 年、娘（当時 10 歳）を交通事故で失う）

○佐藤 清志（平成 15 年、長女（当時 6 歳）を交通事故で失う）

●講演「死別を生きる」子どもを支える」

講師：あしなが育英会東北事務所長 西田 正弘

(平成 30 年度交通事故被害者サポート事業検討会委員)

●意見交換

[開催地：滋賀県]

●ご遺族の話

○被害者遺族A（女性）（昭和53年（当時中学2年生）、父親を交通事故で失う）

○小谷 真樹（平成24年、娘（当時7歳）を交通事故で失う）

●講演「子どもの心理と支援」

講師：国際医療福祉大学赤坂心理・医療福祉マネジメント学部心理学科

准教授 白井 明美

（平成30年度交通事故被害者サポート事業検討会委員）

●意見交換

④ 各種相談窓口等意見交換会

[開催地：三重県]

●講演「交通犯罪の被害者」

講師：同志社大学法学部・法学研究科教授 川本 哲郎

（平成30年度交通事故被害者サポート事業検討会委員）

●意見交換

[開催地：岡山県]

●講演「交通犯罪の被害者」

講師：同志社大学法学部・法学研究科教授 川本 哲郎

（平成30年度交通事故被害者サポート事業検討会委員）

●意見交換

⑤ 自助グループ運営・連絡会議

●講演「複雑性悲嘆の診断および治療の近年動向」

講師：武蔵野大学人間科学部人間科学科教授 中島 聡美

●講演「自助グループの重要性・必要性」

講師：公益社団法人被害者支援センターとちぎ事務局長

公益社団法人全国被害者支援ネットワーク理事 和氣 みち子

（平成30年度交通事故被害者サポート事業検討会委員）

●講演「ファシリテーターの育成について」

講師：公益社団法人全国被害者支援ネットワーク顧問 大久保 恵美子

（平成30年度交通事故被害者サポート事業検討会委員）

●講演「多機関連携—被害者を中心とした自助グループ運営の視点から—」

講師：武庫川女子大学文学部心理・社会福祉学科准教授 大岡 由佳

●意見交換

なお、本事業は、いずれも警察庁が株式会社アステムに委託して実施した。

V. 検討会

1. 目的

被害者学、心理学、被害者支援、遺族心理に関する有識者からなる交通事故被害者サポート事業検討会を設置し、平成30年度交通事故被害者サポート事業の実施方針、実施方法、事業総括等について検討することを目的とする。

2. 検討内容

平成30年度交通事故被害者サポート事業の実施方針、実施方法、事業総括等の決定及び各事業の進捗状況の管理を行うとともに、事業報告書等を作成する。

3. 委員

当検討会の委員は、以下のとおりである（敬称略・順不同）。

- ・同志社大学法学部・法学研究科教授 川本 哲郎（座長）
- ・飲酒・ひき逃げ事犯に厳罰を求める遺族・関係者全国連絡協議会幹事 井上 郁美
- ・公益社団法人全国被害者支援ネットワーク顧問 大久保 恵美子
- ・国際医療福祉大学赤坂心理・医療福祉マネジメント学部心理学科准教授 白井 明美
- ・あしなが育英会東北事務所長 西田 正弘
- ・公益社団法人被害者支援センターとちぎ事務局長、
公益社団法人全国被害者支援ネットワーク理事 和氣 みち子
- ・警察庁交通局交通企画課交通安全企画官 江口 寛章（平成30年7月まで）
警察庁交通局交通企画課交通安全企画官 丸山 直紀（平成30年7月から）

4. 開催概要

平成30年度の本事業における検討会では、以下のことが行われた。

（1）第1回検討会（平成30年7月3日）

- ①今年度事業計画の検討

- ②子供の支援に関するシンポジウム事業計画の検討
- ③子供の支援に関する意見交換会事業計画の検討
- ④各種相談窓口等意見交換会事業計画の検討
- ⑤自助グループ運営・連絡会議事業計画の検討

(2) 第2回検討会（平成30年12月18日）

- ①子供の支援に関するシンポジウムの実施結果報告
- ②子供の支援に関する意見交換会の実施結果報告
- ③各種相談窓口等意見交換会の実施結果報告
- ④自助グループ運営・連絡会議の実施結果報告
- ⑤平成30年度交通事故被害者サポート事業報告書目次案の報告

(3) 第3回検討会（平成31年2月5日）

- ①平成30年度交通事故被害者サポート事業報告書最終案検討
- ②本年度事業総括
- ③次年度事業の方向性の検討

